

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配布しています。また博物館公式 Web からご覧いただけます。

2021
秋号
 第 66 巻 3 号

無料
 Free

表紙の1枚 …………… 1	企画展・関連催しのご案内 …………… 4
・23年ぶりライチョウの子育て	・「山の繪 - 山岳風景画さんぱく収蔵コレクション」 の見どころ
さんぱく研究最前線 …………… 2・3	博物館のひろば …………… 5・6
・山岳地域で気象観測をすることはなぜ大切 なのでしょう	山博友の会だより …………… 7
	付属園だより / 展示・イベントのご案内 …… 8



親子のコミュニケーション



採食する母と子



母鳥の腹下から顔を出す雛

23年ぶり、ライチョウの子育て

栗林 勇太

東京オリンピックを間近に控えた7月15日、ライチョウの雛が誕生しました。今年、さんぱくでは23年ぶりとなる母鳥による子育てが行われ、母と子のけなげなコミュニケーションの様子に職員は釘付けとなりました。

子育ての様子は見ていて感動の連続です。1人っ子の雛は産まれたときから元気いっぱい、産まれたその日から巣の中で歩いたり、母鳥の体の上に乗ったり、数日後には部屋の中を走り回ったりしていました。ここ数年、人の手で孵化させて雛を育てる人工繁殖の取り組みを行ってききましたが、今年はそこから一歩進んで、基本的に孵化や子育てを全て母鳥に任せる自然繁殖の取り組みを行い成功しました。この母鳥も人の手で育てた個体です。しかし、母鳥は誰から教わったわけでもなく、体温調節のできない雛を呼んでお腹の下で温めたり、夕方ねぐらに戻らない雛を呼びに行ったり、一緒に餌を食べたりと、しっかり子育てをこなしています。ある時、雛の姿が母鳥の腹下にも部屋のどこにも見当たらず、焦った

ことがありましたが、なんと母鳥が自分の翼とお腹の間に雛を隠して立っていたのです。おそらく、何かに警戒した母鳥が雛を隠したのだと思われますが、本能的なこれらの行動から、改めて生き物の、自然のすごさを感じました。

この記事執筆中、順調に雛が成長する一方で、国内では依然としてコロナウイルスが猛威を振っています。コロナが人間にとって脅威であるように、ライチョウにとっても感染症は脅威です。かつてコクシジウムなどの感染によって多くのライチョウが苦しめられた結果、さんぱくの飼育は2004年に中断しました。衛生管理などが見直された新たな飼育方法により2016年から飼育を再開して以後は、飼育舎の清潔を徹底しています。

飼育や生息地での保護など、ライチョウの保全はまだまだ続きます。時にはライチョウを影から応援し、時には人が入ってサポートしつつ、ライチョウともども感染症に負けず頑張ります。
 (市立大町山岳博物館 学芸員)

- ◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。
- ◆開館時間は、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)です。
- ◆毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、「大町市民無料開放デー(長野県民割引)」として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は10月16・17日、11月20・21日、12月18・19日です。この機会にぜひご来館ください。
- ◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名/未就学児/大町市内小・中学校に通う児童・生徒/大町市内在住の65才以上の方と高校生》
 このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。



博物館施設案内
 はこちら

山岳地域で気象観測をすることはなぜ大切なのでしょうか

鈴木 啓助

山に登ると涼しくなる

夏の暑い日に高い山に登ると、標高が高くなるにつれて涼しくなっていくことは、皆さんが経験されていると思います。また、袋菓子や山頂での休憩の際に食べようと思いきやザックから出すと、パンパンに膨らんでいることも経験済みかと思えます。このふたつのことは関連があるのです。標高が高くなると気圧が小さくなるので、菓子袋の中の空気が膨張します。この際に空気が持っているエネルギーの一部が膨張のために消費されますから、空気の温度は低下します。これと同じように、山に登るに従い気温は下がっていきます。

空気の塊を、周りとの熱のやりとり無しに上空に運ぶ際に（断熱膨張によって）温度が低下する割合を、気温の断熱減率と呼びます。水蒸気が飽和していない空気の場合は、乾燥断熱減率と呼び0.98°C/100mとなります。逆に空気が水蒸気で飽和している場合は、湿潤断熱減率と呼び0.5°C/100mとなります（厳密には気温と気圧に依存します）。乾燥断熱減率に比べて湿潤断熱減率の値が小さいのは、水蒸気で飽和している空気の温度が低下すると、水蒸気は凝結して液体となりますから、その際に凝結熱を放出して、温度が低下する割合を少なくするためです。なお、対流圏内での平均的な気温減率は、0.65°C/100mです。

気象庁の気象官署（气象台や測候所、現在の特別地域気象観測所を含む）の緯度とそこでの年平均気温の年間値の関係を図1に示します。気象官署は156地点ありますが、ここでは南極昭和基地を除く155地点について示します。図に示すように、当然ながら北に行けば行くほど年平均気温は低下します。しかし、「富士山」のように図中に地点名と標高を示した観測地点の値が、赤丸で示した地点の直線的な関係から外れています。つまり、同じ緯度でも標高が高いと気温は低くなっています。標高が高くない赤丸の観測地点での緯度と年平均気温は、明瞭な直線関係になっています。この関係によれば、年平均気温が1°C変化するためには、南北に約122 km移動しなければなりません。しかし、前述した対流圏内での気温減率を0.65°C/100mとすると、標高差で154mあれば気温は1°C異なることとなります。つまり、気温の水平的な変化に対して、高度方向の変化が約800倍も急激であることとなります。このことから、植物の分布は気温と水分条件によって規定されますから、水平的な植生の変化に気づくのは難しいですが、高度とともに急激に気温の変化する山岳域では地球規模での気温変動の影響による植生の変化は、敏感であることとなります。たとえば、気温の上昇により標高の高い寒冷な環境に生育する植物は住処を失うことになる可能性もあります。また、植生が変化すれば昆虫の分布も変わり、ついには大型動物にまで影響が出てくることとなります。つまり、地球規模での気候変動の影響が山岳域では如実に現れることになるのです。

地球規模での気候変動に対する山岳地域における応答を、観測されたデータに基づき議論するためには、標高の高い山岳地域で気象観測を実施しなければならないのです。

気象庁による全国での気象観測

気象庁による全国の気象観測所は、使用される観測装置の種類によって次のように分類されています。

- ・降水量、気温、風向・風速、日照時間の4要素を観測している有線ロボット気象計（4要素観測所）
- ・降水量、気温、風向・風速の3要素を観測している有線ロボット気象計（3要素観測所）
- ・降水量を観測している有線ロボット雨量計
- ・積雪深を観測している有線ロボット積雪深計

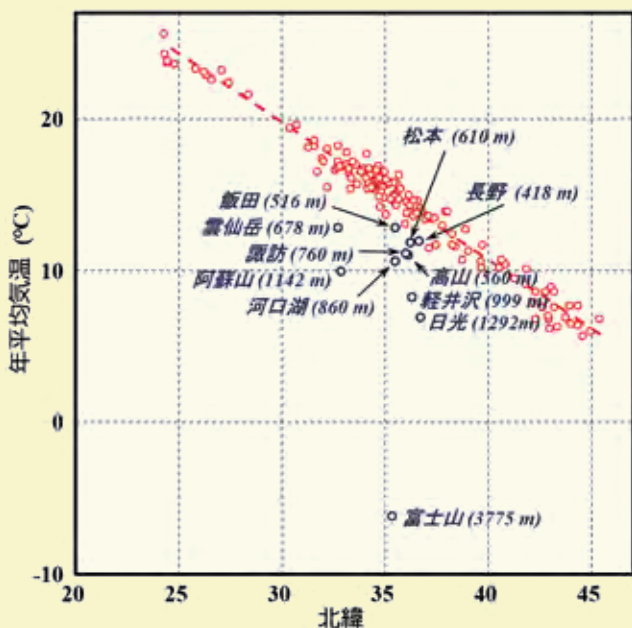


図1. 気象官署の緯度と年平均気温

この中で、降水量を観測している地点が約1300カ所と最も多くなっています。これは、2021年8月の豪雨のように、降水量は災害に直結するからです。

降水量観測所のうち約920カ所では気温と風も観測しています。積雪深の観測はほとんどが有線ロボット気象計との併設です。これらの観測所を総称して、アメダス（AMeDAS）観測所と呼んでいます。

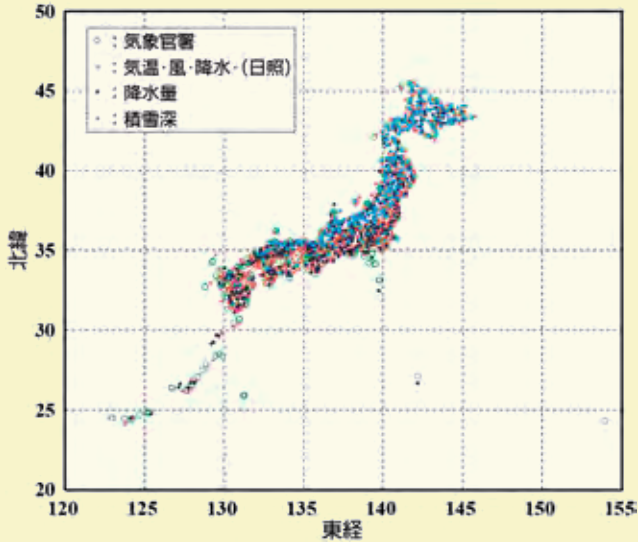


図2. 気象庁による全国の気象観測所

気象庁の気象官署と有線ロボット気象計、降水量計、積雪深計が設置されている地点の緯度と経度を図示したのが図2です。観測地点をプロットしただけですが、日本地図を表現しているようです。これから、気象庁による気象観測所は、国土を満遍なく網羅しているように見えます。しかし、陸地のところどころに空白となっている箇所があります。空白となっている箇所は、それぞれ標高が高い場所です。

山岳博物館と信州大学による山岳での気象観測

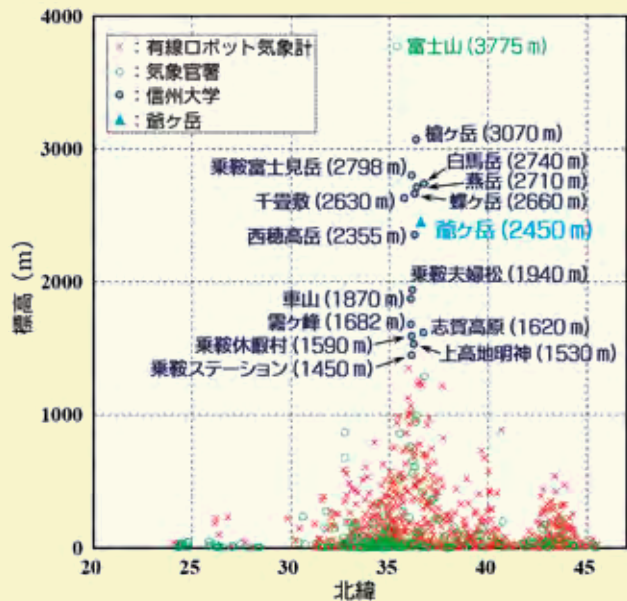


図3. 山岳博物館・信州大学・気象庁による気温観測地点の緯度と標高

気象官署と有線ロボット気象計で気温が観測されている地点の緯度と標高の関係を図3に示します。図1でも示したように、「富士山」の観測地点は標高が3775mで、日本の気象観測地点では最も高い標高です。「富士山」で現在も通年観測されているのは、気圧、気温、湿度のみです。「富士山」では、2004年8月24日までは、気圧、気温、湿度に加えて、風向・風速、全天日射量、積雪深についても観測が行われていました。図3のように、「富士山」に次いで標高の高い気象庁の観測地点は、「野辺山」の1350 mです。地球規模での気温変動の影響が顕著に現れると考えられる3000m級の山々が連なる中部山岳地域において、1350mよりも標高の高い地点では、気象庁による気温の観測が行われていないのです。また、大雪山旭岳の標高は2291mで、北海道中央山地には2000m級の峰々が連なっていますが、北海道における気温観測の最高地点は「層雲峡」（標高：540m）で、北海道においても標高の高い山岳地域での気温観測が行われていません。

気象庁による気象観測では、標高の高い山岳地域が空白となっています。信州大学鈴木研究室では中部山岳地域において気象観測網を整備してきました。これまでに観測を行っている地点は、図3に示すように、「檜ヶ岳」、「乗鞍富士見岳」、「白馬岳」、「燕岳」、「蝶ヶ岳」、中央アルプス「千畳敷」、「西穂高岳」、「乗鞍夫婦松」、「車山」、「霧ヶ峰」、「志賀高原」、「乗鞍休暇村」、「上高地明神」、「乗鞍ステーション」の14カ所です。最初に観測を開始したのは「乗鞍休暇村」で、2002年11月18日から観測を行っています。「乗鞍富士見岳」では、その翌年の2003年10月15日から観測を行っています。なお、「白馬岳」での観測は、2017年10月1日で終了しました。「蝶ヶ岳」での観測は2017年11月7日に開始しました。気温、湿度、風向・風速、気圧、日射量（「白馬岳」を除く）は、すべての地点にて通年で観測を行っています。降水量については、商用電源が確保できる地点では通年で観測を行っていますが、降雪時の降水量観測のためには雪を融解するための電源が必要なため、商用電源が得られない地点では暖候期のみ観測を行っています。さらに、積雪深の観測を「西穂高岳」、「乗鞍夫婦松」、「霧ヶ峰」、「志賀高原」、「上高地」、「乗鞍高原」の6地点で行っています。

山岳博物館では、爺ヶ岳種池山荘で気象観測を2010年9月から行っています。図3を見ると、気象庁による気象観測の空白地帯となっている標高を、山岳博物館と信州大学の観測地点が埋めていることがわかります。（市立大町山岳博物館 館長）

市立大町山岳博物館 創立 70 周年記念

令和 3 年度 市立大町山岳博物館 企画展

「山の繪^え ～山岳風景画さんぱく収蔵コレクション～」

の見どころ

山岳博物館創立 70 周年記念の第 3 弾企画展として、当館が収蔵する山岳風景画の秀作約 20 点を展示致します。開催期間は、令和 3 年 12 月 18 日（土）～令和 4 年 3 月 27 日（日）となります。

ここでは、企画展の見どころや関連催しのご案内を致します。

博物館発行の「年間催しのご案内」では企画展開催期間を、令和 3 年 12 月 4 日（土）からとしておりましたが、館内設備の改修工事の為、博物館が臨時休館することから開催日が変更となりましたのでご注意ください。

明治維新以降、国内の山岳地帯はお雇い外国人らを嚆矢として、日本の近代登山の幕を開けました。山岳風景の美しさは、志賀重昂の『日本風景論』を介して、登山熱の高まりを巻き起こし、一方で奥山の探検的要素や神秘さに自然科学を目覚めさせ、博物学の発展に寄与し、文学など様々な分野に影響を与えました。明治の人々にとっては、山の魅力を再発見し、山が持つ可能性を発見した時代でした。

ある者はこの自然の美しさを写真におさめ、ある者は西欧の新たな影響を受けた絵画技法を用い、実際にキャンバスを持って山に登り、これまでに見たこともない風景美を描き残そうとするものも出てきました。昭和 11 年には、「山を描く画家の集団」として、日本山岳画協会が、中村清太郎や足立源一郎、茨木猪之吉、丸山晚霞、吉田博らによって創立され、山岳画が確固たる絵画の一分野として確立しました。

本展では、そうした明治後半に創生した、初期の山岳画家たちが、感動し、描き残そうとした山岳風景画に焦点を当て、当時の画家がその絵に託した思いを感じとっていただけましたら幸いです。

（担当：清水 隆寿）



中村 清太郎「立山残雪」(油彩・F25)



大下 藤次郎「六月の穂高岳」(水彩・M8)

関連催し

企画展「山の繪 ～山岳風景画さんぱく収蔵コレクション～」ミュージアムガイド

博物館が収蔵する山岳風景画の企画展開催にあわせ学芸員が作品の展示解説を行います。

- 開催期日 令和 4 年 1 月 16 日（日）、2 月 20 日（日）、3 月 20 日（日）
- 開催時間 ①午前 10 時 30 分～ ②午後 2 時 30 分～
所要時間は 20 分程度、いずれも同じ内容です。
- 会場 山岳博物館（1 階） 特別展示室
- 申し込み 不要、当日直接ご参加ください。
- 参加費 通常観覧料。ただし、3 日間とも家庭の日の為、大町市民は無料。長野県民は割引料金。

特別展のミュージアムトークを行いました

令和3年4月24日(土)、5月16日(日)、6月20日(日)



特別展について学芸員が展示の内容について解説するミュージアムトークを行いました。

特別展では北アルプスで発見された深海生物「ウミユリ」の化石や、かつて大町でも見られた「トキ」の剥製など、過去から現在までに北アルプス山頂から山麓にかけて生きてきた動物を、剥製を中心に展示しました。ミュージアムトークではこれらの剥製の解説を行い、参加者からは「身近に暮らしていても、こんな動物がいたとは知らなかった」など、多くのコメントが寄せられました。

青木湖・木崎湖キャンプに学芸員を派遣しました

令和3年6月3日(木)、6月18日(金)
7月16日(金)、7月19日(月)



市内外の小学校4校が実施した、青木湖と木崎湖のキャンプ学習会に、職員を2名ずつ派遣しました。

キャンプ場内に設置した、各湖に関係した自然や歴史にまつわる質問パネルを探しながら、各班で相談して答えを出す、クイズラリーを実施しました。青木湖では、湖の底に高い崖が続いていることや、湖周辺の動植物の多様性、縄文人の生活などについて、パネルや実物を用いて解説し、理解を深めてもらうきっかけ作りができたと思います。

ライチョウの餌にするナラの葉の採取を行いました

令和3年5月29日(土)



当館で飼育しているライチョウには、ナラの葉などを使用した特性の配合飼料を与えています。飼育しているライチョウの1年分のナラの葉を採取するのはたいへんですが、毎年松本山雅後援会の皆様にご協力いただき無事必要量の確保ができています。ナラの木の提供や伐採には千年の森自然学校に、葉の乾燥には池田町ハーブステーションのPolarisAct様にご協力をいただき、多くの方々の支援があってライチョウを飼育することができています。今年はぐるったネットワーク大町様にも採取のご協力を頂きました。

児童クラブへ学芸員を派遣しました

令和3年7月27日(火)、30日(金)
8月5日(木)、6日(金)



市内の児童クラブへ学芸員を派遣し、昆虫採取や標本づくり、ライチョウのお話などを通して、大町市内に生息する生き物について学んでいただく機会としました。

昆虫採集の回では、大町南小学校の校庭でトンボやチョウ、バッタなど、たくさんの昆虫を見つけ、実際に自分が捕まえた昆虫は何かを昆虫図鑑を使って調べてみました。

普段、気にしていないところにも、様々な生き物が生息していることを発見して、あっという間の1時間でした。

特別展関連イベントとして標本づくり講座を開催しました

令和3年6月5日(土)、12日(土)



年間を通して博物館には多くの方が来館されますが、実は博物館が収蔵している資料がどのようにして出来ているのかを知る機会はありません。

今回は実際に2人1組で標本(鳥の仮剥製)づくりを体験していただくことで、資料の重要性や博物館の見えないところでの仕事について知っていただく機会となりました。

初めての体験ということもあり、少々手こずりもしましたが、皆さんきっちりと完成させることができました。

友の会会員との研究発表

令和3年6月1日(火)



当館では、大町市を含む大北地域の植物分布調査を長野県植物研究会会員の指導のもと、さんぱく友の会サークル「花めぐり紀行」の会員が参加して行っています。

この度、令和2年度の調査結果を「長野県大町市におけるスキー場駐車場に見る湿地の植物相について」と題して長野県植物研究会誌第54号に投稿し、掲載されました。

今後も引き続き、会員の皆様に参加していただきながら、生涯学習の場の提供や地域の核となる人材育成に寄与できるよう取り組んでまいります。

親海湿原野外学習指導

令和3年6月18日(金)



長野県大町岳陽高校の野外実習が親海湿原(白馬村)で、午前・午後の2回に分け行われ、当館学芸員を派遣しました。この授業では、大北地区にある貴重な自然財産についての理解を深めるとともに、湿原の形成についての二次遷移とは何かについて学ぶ機会となっています。

実習では、青木湖との関係や湿原の成り立ち、植物と昆虫との関係、匂いからわかる植物名などを紹介しながら、郷土の自然を学び、関心を持てるようお手伝いをさせていただきました。

令和3年度の博物館実習を実施しました

令和3年7月31日(土)～8月5日(木)



当館では毎年、博物館実習を開催して、学芸員資格の取得を目指す大学生を受け入れております。今年は新型コロナウイルスの影響で実施が危ぶまれましたが、感染対策を徹底することで5名の学生を受け入れました。

学芸員の指導のもと講座やイベントの補助を通して、日頃の業務に関して学んでいただきました。実習の最終日には、1人30分程度かけて、館内の解説を行うことで博物館についてより深く知ってもらうことができました。今後も将来学芸員を目指す学生の支援を続けてまいります。

「夏休み！鷹狩自然探検隊」に学芸員を派遣しました

令和3年7月28日(水)～29日(木)



長野県山岳総合センターの企画に協力して、小学生15名を対象とした付属園での動物観察、夜の博物館探検、鷹狩山での自然観察会を実施しました。

鷹狩山での自然観察会では、登山道にある石ころを拾い、山の子村にある石の王様(昔の高瀬川が運んだ巨石)と同じものであることに驚いている様子が見られました。また、山の子村は大きな地すべりでできたことを知って、鷹狩山の成り立ちを現地で楽しく理解してもらいました。

キャリアアップ研修の受け入れを行いました

令和3年8月1日(日)、4日(水)



学校教員を対象としたキャリアアップ研修Ⅱ「社会体験研修」として、大町岳陽高校の先生1名を受け入れました。

同時期に開催している令和3年度の博物館実習に参加いただき、「さんぱくこども夏期大学」や「自然ふれあい講座」などの自然観察イベントの運営補助、収集品の保存業務のほか、動物担当が行っている野外調査を体験していただき、博物館が普段行っている様々な業務について知っていただきました。今後、博物館と高校との連携した学習機会などの活性化に繋げていくきっかけとしたいです。

さんぱくこども夏期だいがく「超！蝶観察会」を開催しました

令和3年8月1日(日)



さんぱくこども夏期だいがくは平成23年以降、夏休みの企画として、毎年多くの子供たちに参加いただいています。

今年は大町公園で親子8組19人がチョウの観察会を楽しみました。チョウの採取と同定を行ったのち、チョウの標本の展示や顕微鏡で鱗粉を観察しました。素早く動きまわるチョウを採取するのはなかなか難しいですが、ミスジチョウやジャノメチョウの仲間など普段聞きなれないチョウの仲間を採取できた子供たちからは喜びの声が聴かれました。

セミのぬけがら調査を行いました

令和3年8月4日(水)



大町公園にて、長野県環境保全研究所職員と当館学芸員がセミのぬけがら調査を行いました。毎年、「自然ふれあい講座」と題し、同研究所主催(当館共催)でセミの抜け殻採取のイベントが大町公園で行われていますが、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。温暖化の影響が生き物にどんな影響を及ぼすか調査することも目的としているため、本年は職員のみでセミのぬけがらを収集しました。標高の比較的高いところに生息するエゾゼミなど、6種類約300個のぬけがらが見つかり、改めて大町には様々なセミが暮らしていることが分かりました。

さん ぱく 山博友の会だより

当会またサークル4団体（ボランティアの会・烏帽子の会・花めぐり紀行・山岳文化研究会）の活動は、博物館公式HPでご覧いただけます。

自然観察会 八方尾根を歩く

今の友の会は発足してから40年余りになりますが、発足の年にも自然観察で八方尾根を訪れておりました。

今回は、千葉学芸員を講師とした高山植物が中心の観察会でしたが、地形や地質といった植物の基盤を友の会会員が補足説明を行いました。資料には、11月28日まで行われている企画展「北アルプス誕生とそこに息づく高山植物のものがたり」の企画展解説書が用いられました。

幸い天候にも恵まれ、20名の参加者は2班に分かれて行動し、美しい白馬三山を眺めつつ、高山植物は50種余りを確認しながら、昆虫との関係や受粉のしくみなど、植物の持つふしぎの世界へ案内していただきました。ルートは自然探求路としても整備されており、ゆっくりルーペで観察している姿も見られ、二重山稜や地質と高山植物の関係などの話も要所々々で聞かれ生きた学習となりました。

今後も皆様とのつながりを大切に、会の活動に参加できればと思います。

（詳しくは、博物館のHPから友の会の報告をご覧ください。）



参加者の感想より

- ・長花柱花、短花柱花なんて用語を、くだけた易しい説明が出来るほどに自分の知識を深めていくことが私の一つの目標であり、じっくりと掘り下げた知識も身に着けたいと思う。
- ・「〇〇先生が言っていたから、ということで納得しないで自分でしっかり確認すること」ということですが、ん～難しい課題だ。
- ・高山植物がたくさん見られる場所で、いつもと違う方面から花を見る！ などなど

山岳博物館へ 双眼鏡の寄付をいただきました

友の会の皆様から、博物館の70周年に合わせて何かしらの事業を行いたいとの申し出があり、子供たち向けの事業整備ということで、双眼鏡を10台購入し、寄付をしていただきました。

小さな子供も使いやすい目幅の小さなものも含めたものとしております。



付属園だより 『爪と嘴のこと』

鳥の爪と嘴は、人と同じように日々少しずつ伸びています。野生下では普段の生活の中で自然に削られるため適切な長さに保たれていますが、環境が限られている飼育下では定期的なメンテナンスが必要になる場合があります。当園で行っているトビの爪・嘴切りについてご紹介します。

◎爪切り

爪の中には血管が通っています。爪の色が薄い動物の爪なら血管が見えているので切りやすいのですが、トビの爪は黒いので感覚でやるしかありません。手順としてはまず真横にカットします。ここで出血してしまった場合、すぐに止血剤で止血します。次に左右の角張ったところをカットし形を整えて終了です(写真1)。



◎嘴切り

嘴は長期間切らないと上下のかみ合わせが悪くなり、最悪の場合不正咬合になってしまいます(写真2)。当園にいるトビも、1羽、不正咬合であごとずれてしまっているトビがいます。

爪切りのように手順が決まっているわけではなく、上下のかみ合わせや長さを見て伸びた部分をカットしていきます(写真3)。切るだけでなく、やすりで削って整える場合もあります。



展示・イベントのご案内

山岳博物館発行の「2021年度 年間催しのご案内」におきまして、10月9日(土)に博物館創立70周年記念講演会Ⅰ(平林克敏氏による「エヴェレストが教えてくれたこと」)を、11月20日(土)には創立70周年記念式典及び記念講演会「オーストリア・インスブルックとアルプス動物園」を開催する旨ご案内をさせていただいておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、以下の通り変更(一部中止)となりましたので、ご確認をいただきますとともに、ご来場をお待ちしております。

山岳博物館創立70周年記念式典・記念講演会

講演会 「エヴェレストが教えてくれたこと ～仕事と山と人と～」

- 期日 令和3年11月28日(日)
- 時間 午後1時30分～午後4時
- 主催 市立大町山岳博物館
- 共催 公益社団法人日本山岳会、長野県山岳協会
- 講師 平林克敏氏
(国内初エヴェレスト登頂者、信濃大町観光大使)
- 内容 昭和45年(1970)5月11日、日本山岳会エベレスト登山隊の松浦輝夫・植村直己隊員が日本人として初めてエヴェレストへの登頂し、翌日には平林克敏氏が登頂を果たしました。登頂から今年で51年。当時の登攀の思い出と、登山から影響を受け

- たその後の人生についてのお話をいただきます。
- 会場 大町市文化会館 大ホール
- 対象 どなたでも
- 参加費 無料
- 申込み 参加希望の方は、事前に山岳博物館にお申込みください。
- その他 今回の式典開催におきましては、新型コロナウイルス感染対策をして実施致しますが、感染拡大のため、急遽イベントの中止の可能性がありますので、詳細につきましては博物館ホームページや電話にてお問合せください。

編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館 編集責任者 鈴木啓助
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:https://www.omachi-sanpaku.com

2021

発行日 2021(令和3)年9月25日

秋号

第66巻3号

印刷 有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010